

# 建設建築委員会報告書（案）

令和 年 月 日

北九州市議会議長 鷹 木 研一郎 様

建設建築委員会委員長 河 田 圭一郎

本委員会は、次の事件について調査を終了したので、北九州市議会会議規則第 101 条の規定により報告します。

## 1 調査事件

### 治水対策の推進について

近年、各地で大規模な豪雨災害が発生している。本市においても、平成 30 年 7 月豪雨で市内の多くの河川でいっ水が発生するとともに、市内全域で豪雨被害が発生し、市民生活に深刻な影響が出ている。

このように頻発化、激甚化する豪雨災害の状況から、今後もより深刻な災害の発生が懸念されている。

このため、本委員会は、防災、減災、国土強じん化に向けて、今後も治水対策事業等を着実に推進していくことが必要であることから、本事件について調査を行うこととした。

## 2 調査の経過及び結果

### ○ 令和 3 年 8 月 19 日 建設建築委員会

本市の治水対策の状況について、当局から説明を受けた。

また、本委員会の委員全員により、福岡県に対し、紫川及び板櫃川の治水対策の着実な推進について要望活動を実施することを決定した。

（説明要旨）

#### （1）市内を流れる河川について

河川種別※	管理者	河川数	市内延長	河川名
一級河川	国土交通大臣 県知事	9 河川	41.2 k m	遠賀川、笹尾川、江川など
二級河川	県知事	19 河川	97.0 k m	紫川、板櫃川、金山川など
準用河川	市長	24 河川	40.0 k m	朽網川、天籟寺川など
普通河川	市長	207 河川	215.9 k m	スタヌキ川、高瀬川など
合 計		259 河川	394.1 k m	

※河川法の適用を受ける河川が一級河川と二級河川、河川法の規定の一部を準用する河川が準用河川、その他の河川が普通河川。

(2) 本市におけるこれまでの主な豪雨災害について

昭和 28 年 6 月の西日本大水害をはじめ、度重なる豪雨災害に見舞われ、平成 30 年 7 月豪雨では、板櫃川など市内 31 河川で水があふれ、42 か所で河川護岸の崩壊等が発生した。

また、令和 3 年 8 月 12 日からの大雨による本市の状況について、小倉南区で過去 6 年間の 8 月の平均雨量の約 3 倍となる 431 ミリが記録され、板櫃川、相割川、撥川の 3 か所で護岸の一部崩壊が確認され、復旧に向けて取り組んでいるとの報告があった。

(3) 本市における治水対策について

一級河川及び二級河川については、長期的な観点から、整備計画を河川管理者が作成し、国、県及び市が計画的に治水対策に取り組んでいる。準用河川、普通河川については、河川管理者である市が近年の浸水実績や河川周辺の状況などから総合的に判断し、緊急度の高い河川から整備を行っている。

治水対策は、河川の拡幅や河道の掘削、護岸のかさ上げなどを基本とし、河川改修が困難な市街地などについては、雨水を一時的に貯留し、川へ流出する水量を減らす調節池等の整備を進めている。

(4) 治水対策を計画中の主な河川について

平成 30 年 7 月豪雨により、抜本的な治水対策が必要な河川を対象に新たに河川整備の計画を策定している。

具体的に、板櫃川は中流部で河川から水があふれ、浸水被害が発生したことを踏まえ、県が河川計画の基本となる河川整備基本方針を策定中である。

また、市が管理する小熊野川、朽網川、スタヌキ川、高瀬川についても、河川改修事業の着手に向けて計画を策定中である。

(5) 今後の治水対策の取組について

①効率的、効果的な事業の実施

必要な予算を確保し、効率的な事業実施に努め、早期完成を目指すとともに、効果的な事業執行に向けて、下水道など関係部局との連携を図る。

②国や県への提案活動

国に対しては予算の確保などを、県に対しては紫川や板櫃川の治水対策の着実な推進などを働きかける提案活動を継続する。

③流域治水の推進

気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、これまでの河川の治水対策に加え、公園や建物内での貯留施設等の設置、さらには、避難体制の強化や土地利用の規制など国や自治体、企業、住民などあらゆる関係者で進める治水対策、いわゆる流域治水にも取り組んでいく。

《委員の主な意見》

- ・関係団体としっかり連携して河川対策を推進されたい。
- ・農業用ため池を活用した治水対策について検討されたい。

○ 令和3年9月30日 建設建築委員会  
福岡県への要望文を決定した。

○ 令和3年10月4日 福岡県議会及び福岡県

①福岡県議会への要望事項の事前説明

福岡県議会の正副議長及び北州会に対し、福岡県への要望事項について説明を行った。また、委員から、河川に堆積している土砂の撤去など日常的な維持管理や河川監視カメラの増設などについて要望した。

②福岡県への要望活動

福岡県議会北州会の議員同席で、服部誠太郎福岡県知事に対し、別紙要望書に基づき、紫川及び板櫃川等の治水対策の推進について要望した。また、委員から、平尾台で発生した大雨による土砂災害に対する支援について要望した。

《要望事項》

- ・紫川や東谷川について、広域河川改修事業をさらに推進すること
- ・板櫃川について、清水橋から上流部の河川整備に向けた計画を早期に策定するとともに、平成30年7月豪雨による浸水箇所の対策を着実に推進すること

《県知事の回答》

- ・紫川及び東谷川については、安全な流下能力の維持のため、令和10年度の完了を目指して、河床掘削（暫定掘削）を進めている。
- ・板櫃川については、今年度から河床掘削に着手し、令和4年度に完了させる計画である。また、清水橋から上流部については、国と河川整備の基本方針について協議を行っている。
- ・紫川、東谷川及び板櫃川の整備については、今後も北九州市と連携して、早期の完成を目指していきたい。

○ まとめ

本市はこれまで、国や県、関係団体と連携して、必要な治水対策に取り組んできたところであるが、近年、各地で大規模な豪雨災害が発生していることに鑑み、今回本委員会の委員全員で、紫川及び板櫃川等の治水対策の推進について福岡県への要望活動を行った。これに対し県知事からは、河床掘削の完了目標や本市とのさらなる連携について回答を得ることができた。

頻発化、激甚化する豪雨災害から市民を守るため、今後も河川の治水対策事業の着実な推進が重要であり、議会としても支援の強化が必要であると考えている。

# 令和4年度 福岡県に対する提案・要望書

令和3年10月

北九州市議会  
建設建築委員会

# 建設建築委員会

委員長 河田圭一郎

副委員長 佐藤栄作

委員 田仲常郎

委員 本田忠弘

委員 渡辺修一

委員 白石一裕

委員 山内涼成

委員 渡辺均

委員 松尾和也

## 紫川・板櫃川等の治水対策の推進について

近年、全国各地で毎年のように大規模な豪雨災害が発生しています。福岡県内では平成29年から本年まで5年続けて大雨特別警報が発表され、各地で甚大な被害が発生しています。

本市においても、近年では、平成21年7月中国・九州北部豪雨や平成22年の大雨など何度も豪雨災害に見舞われてきました。特に、平成30年7月豪雨では、多くの河川で氾濫危険水位を超え、市内各地で溢水による浸水被害や河川護岸の崩壊等が発生するなど、市民生活に深刻な影響を及ぼす事態となりました。

また、今年の8月においては、小倉南区で7日間の総雨量が431mmを観測するなど、8月の平年降水量の2倍を超える大雨が降り、平成30年7月のような甚大な被害には至りませんでした。道路冠水20件、がけ崩れ23件などの被害が市内で発生しました。

本市では、これまでも国や福岡県と連携して、治水対策を進めてきたところですが、頻発化、激甚化する災害から市民生活を守り、安全・安心に暮らせるまちづくりを実現するためには、今後もより一層、防災・減災、国土強靱化に向けた事業を着実に推進していくことが重要です。

つきましては、市民の命と暮らしを守るため、次の事項について格別の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

### 記

- 1 紫川や東谷川について、広域河川改修事業を更に推進すること
- 2 板櫃川について、清水橋から上流部の河川整備に向けた計画を早期に策定するとともに、平成30年7月豪雨による浸水箇所対策を着実に推進すること